

基本構想

I 総合計画の策定にあたって

1 総合計画策定の背景と目的

小松島市(以下「本市」)では、長期的展望のもと、効率的かつ戦略的なまちづくりを推進するため「小松島市第6次総合計画」(平成29年度～令和8年度)を策定し、将来像である「未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま」を実現するため、各種施策や事業を推進しています。

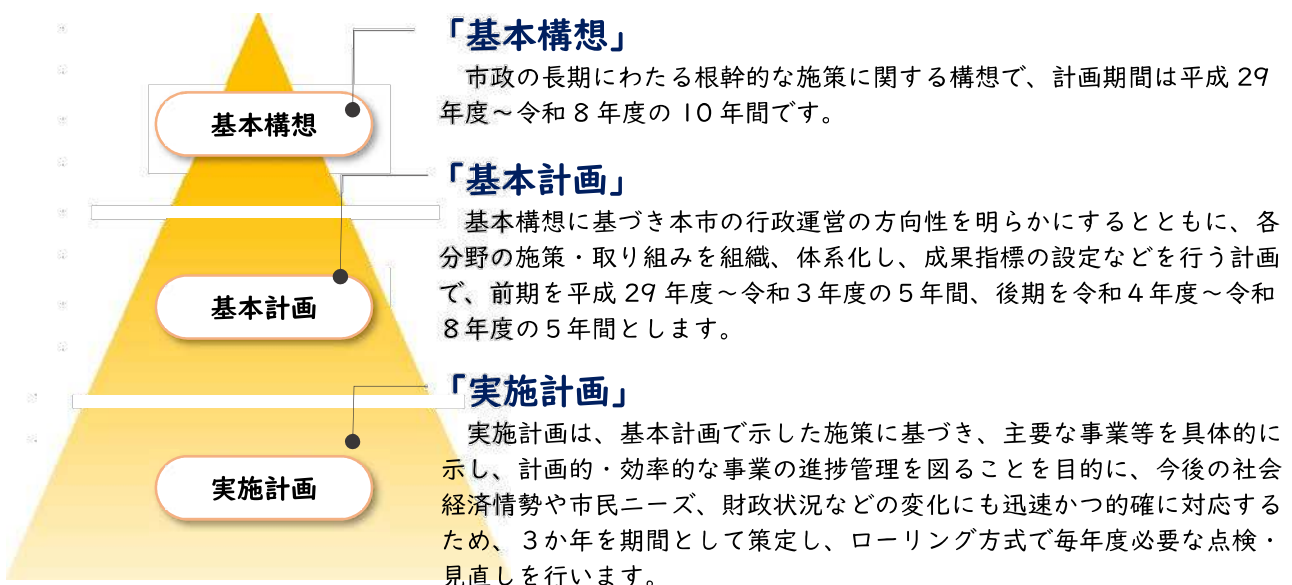
我が国では、少子高齢化や本格的な人口減少が進行し、それに伴う地域経済の縮小や地域活力の低下等が大きな課題となっています。更に、新型コロナウイルス感染症を踏まえた新しい生活様式への対応など、社会経済環境は大きく変化し、本市を取り巻く情勢にも大きな影響を及ぼしています。

そのため、これまで以上に地方の特色を生かした地方創生の推進が求められており、持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。地方公共団体の果たす役割の重要性がさらに増すとともに、市民との協働により実現していくことが不可欠となります。

このようなことから、前期基本計画が令和3年度で終了することを機に、総合計画の目標達成に向けてその進捗状況や実績を検証し、より一層住民と行政が連携、協働しまちの活力や魅力を高めていく施策展開を図るため、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする後期基本計画を策定するものです。

2 総合計画の構成と期間

本計画は、「基本構想(10年計画)」、「基本計画(前後期5年計画)」、「実施計画(3年計画)」により構成します。各計画の役割及び計画期間は、次のとおりです。



Ⅱ 小松島市を取り巻く環境

Ⅰ 社会情勢の変化・時代の潮流

(1) 少子高齢化・人口減少社会

国の総人口は、平成20年(2008年)の1億2,808万人をピークに減少しており、合計特殊出生率についても人口の維持に必要な水準を下回る状態が続くなど、人口減少に歯止めがかからない状況となっています。

少子化に伴う人口減少は、社会経済活動の縮小や、活力ある地域社会の維持に大きな影響を与えることから、人口減少に歯止めをかけていくための取り組みが必要です。また、我が国では、世界に類を見ない速度で高齢化が進展しており、令和7年(2025年)には、団塊の世代が75歳を迎え、国民の3人に1人が65歳以上になると見込まれています。

急速な超高齢社会の進展は、年金や医療、介護などの社会保障費を増大させるほか、地域コミュニティにおける担い手の高齢化や人材不足の深刻化など、まちづくりに大きな影響を及ぼします。

老年人口の急速な増加を見据え、健康で元気な高齢者も含めて地域の支え手となり、共に助け合う「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進める必要があります。

(2) 防災・減災、環境問題への対応

東日本大震災や平成28年熊本地震などの大規模地震、また集中豪雨など、全国各地で想定を超える自然災害が多発しています。

このような状況を踏まえ、いかなる災害が発生しても被害を最小限に抑え、かつ迅速な復旧復興につなげる「国土強靱化」が推進されています。

地球温暖化による気候変動や、天然資源の大量消費による枯渇、自然破壊や環境汚染など、地球規模での環境問題が深刻化しています。

我が国も国際社会の一員として、生物多様性や自然保護、地球温暖化やエネルギー問題、循環環境や廃棄物問題など、様々な分野における環境問題に対応すべく取り組みを進めており、国民一人ひとりが環境問題に対して自発的に行動する必要があります。

(3) 先端技術の活用及び人材育成

国は、IoT※1、ロボット、AIといった先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられた、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる「Society5.0」※2の実現を目指しています。

人口減少と少子高齢化が進行する中であっても、国際競争力の強化や産業・経済の活性化を図るとともに、労働力不足への対応をはじめとする社会的な課題解決や持続可能でより豊かな社会を実現するため、先端技術の開発やデジタルトランスフォーメーション(DX)※3の取り組みを進める必要があります。

- ※1 Iot…「Internet of Things」の略語で、直訳して「モノのインターネット」と呼ばれる。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みのこと。
- ※2 Society5.0…狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。
- ※3 デジタルトランスフォーメーション(DX)…デジタル技術を浸透させることで人々の生活をよりよいものへと変革すること。

(4) SDGs(持続可能な開発目標)の推進

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

SDGsの目標(ゴール)は、世界共通の目標であり、地方自治体の掲げる目標とはスケールが異なりますが、目指すべき方向性は同じものと考えられるため、本計画においてもこうした流れを踏まえ、持続可能でより強靱な取り組みが求められます。

そこで、本計画に国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標(SDGs)」の考えを関連づけることで、総合計画、地方創生、SDGsを一体的に推進し、本市を取り巻く社会情勢の変化などを予測しつつ、長期的な視点でまちづくりを進めていくこととします。



(5) 新型コロナウイルス感染症などのリスクに対応できる社会づくり

令和2年1月に、国内ではじめての新型コロナウイルス感染者が確認され、その後、都市部を中心に感染者数が急増し医療提供体制がひっ迫する事態となったことを受け、同年4月には、全都道府県に対し緊急事態宣言が発令され、都道府県をまたいだ不要不急の移動自粛や、学校の休校、商業施設等への休業要請などにより、国民の生活や経済活動が大きな影響を受けることとなりました。

国や地方自治体は、検査体制や医療提供体制などの強化に取り組むとともに、感染予防の切り札となるワクチン接種を進めるなど、生活や雇用・経済を守るための措置を講じてきました。

今後は、デジタル技術の導入等により非対面・非接触で行うことのできる活動の幅がさらに拡大するものと考えられることから、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動を両立する「新たな日常」に対応した持続可能なまちづくりを進める必要があります。

2 市民ニーズの動向

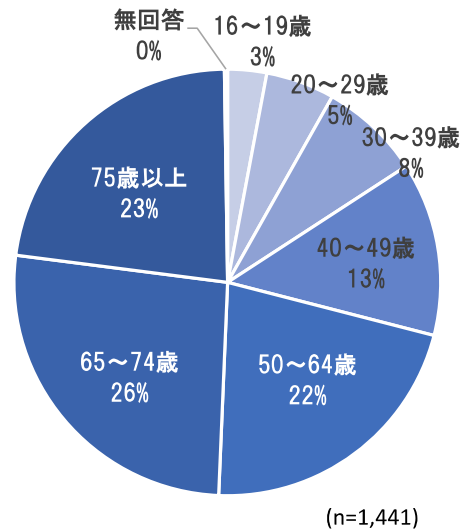
■■ 調査の目的 ■■

小松島市第6次総合計画後期基本計画の策定にあたり、市民の皆さまに身近な環境や市の将来像などについてご意見をお聞きし、計画策定の貴重な資料として活用させていただくことを目的としてアンケート調査を実施しました。

■■ 調査の概要 ■■

調査方法	16歳以上の市民を対象に、 3,000人 を無作為抽出して郵送
調査期間	令和3年6月9日発送、 令和3年6月30日締め切り
回収数	1,441票
回収率	48.0%

■■ 年齢別回収割合 ■■

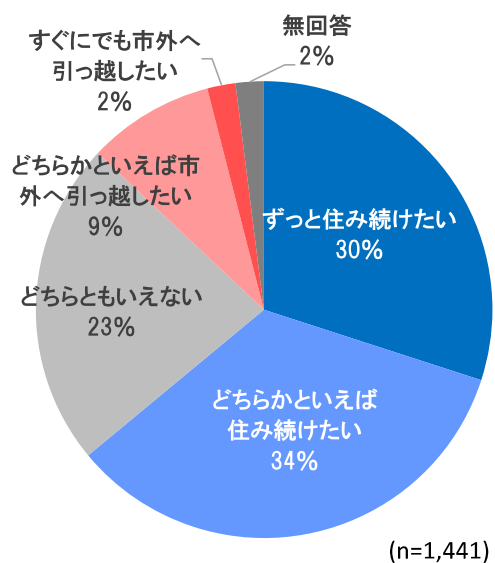
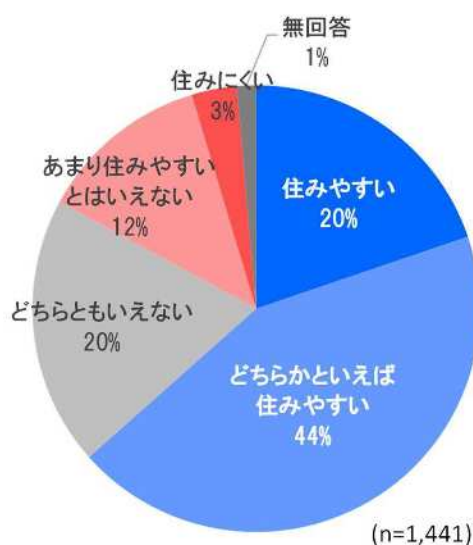


(1) 住みやすさと今後の定住意向

問. 小松島市は住みやすいまちだと思いますか。(1つに○)

問. あなたは、今後も小松島市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- 「どちらかといえば住みやすい」が44%と最も多く、「住みやすい」20%と合計した、住みやすいと感じている割合は全体の6割以上を占めています。
- 「どちらかといえば住み続けたい」が34%と最も多く、「ずっと住み続けたい」30%と合計した、住み続けたいと感じている割合は全体の6割以上を占めています。



(2) 小松島市のまちづくりについて

問. あなたは、小松島市の各施策について、現在の程度満足していますか。また、今後どの程度重要だと思いますか。(各項目に1つずつ○)

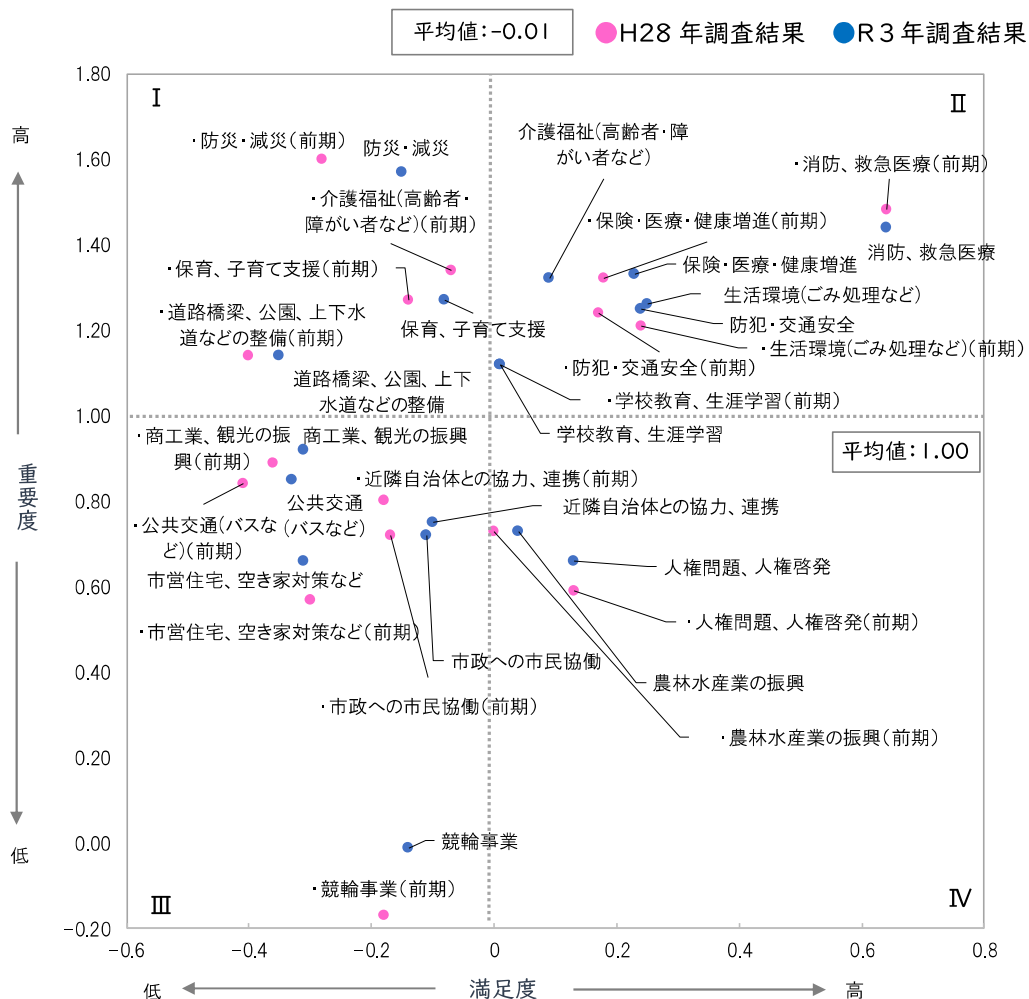
- 小松島市の各施策における『満足度』と『重要度』について、重要度が高く、満足度が低い取り組み（Ⅰ）は「防災・減災」「保育、子育て支援」「道路橋梁、公園、上下水道などの整備」となっています。
- 重要度が高く、満足度も高い取り組み（Ⅱ）は「消防、救急医療」「保険・医療・健康増進」「生活環境(ごみ処理など)」「防犯・交通安全」「介護福祉(高齢者・障がい者など)」「学校教育、生涯学習」となっています。

■各施策の重要度と満足度（ポートフォリオ分析）■

<ポートフォリオ分析について>

小松島市の各施策における『満足度』と『重要度』を下記のⅠ～Ⅳにマッピングし、『優先的改善項目』を把握する分析方法です。

Ⅰ	重要度【高】満足度【低】	Ⅱ	重要度【高】満足度【高】
Ⅲ	重要度【低】満足度【低】	Ⅳ	重要度【低】満足度【高】



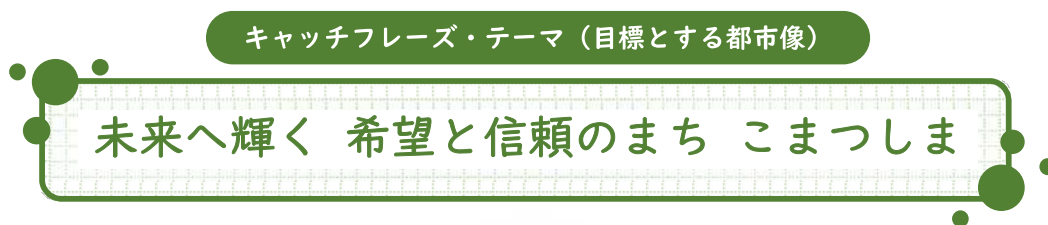
Ⅲ まちづくりの基本方向

Ⅰ 目標とする都市像

(1) キャッチフレーズ・テーマ

小松島市第6次総合計画では、より具体的に、小松島市に住みたい、働きたい、安心して子育てができる「未来へ輝く」まちづくりを推進していくことを念頭におきました。

より良いまちづくりのために、子どもも、若者も、高齢者も、世代を超えてやる気が持てる「希望」に満ちた「こまつしま」をめざします。そのため、本計画のキャッチフレーズ・テーマ(目標とする都市像)に『未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま』を掲げ、市民の皆さんからの「信頼」が得られるまちづくりを推進します。



(2) 目標人口

「小松島市人口ビジョン」で掲げた 2060 年の将来目標人口である 29,000 人を踏まえ、計画目標年次の令和8(2026)年の人口を 36,000 人と設定したまちづくりを進めていきます。

2 まちづくりの政策と基本目標

政策① ひとりひとりが輝けるまちづくり

ひとりひとりが年齢、性別に関係なく、小松島市に住んでよかった、ずっと住み続けたいと思えるようにするため、子育て家庭や高齢者、障がいのある方など、支援を必要としている人をみんなが認め合い、支え合いながら、それぞれが主体性をもっていきいきと輝いて生活できるまちづくりをめざします。

基本目標

- 1 子育てしやすいまちづくり
- 2 心豊かなひとづくり
- 3 健やかな暮らしづくり

政策② 未来への活力を育むまちづくり

にぎわいのある地域社会を形成するため、小松島市の強みである豊かな自然が育んだ農作物や水産物を中心としたブランド力の推進を強化します。また、若者や高齢者などの雇用の創出に向けた環境整備を推進します。

基本目標

- 4 活気あふれるまちづくり

政策③ 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

誰もが安心して暮らしていけるまちづくりのために、水と緑の豊かな自然環境をいかしながら、住環境や都市基盤の整備を行うとともに、いつどこで起こるかわからない自然災害に対しての不安を払しょくできる防災・減災対策機能の強化を図る等、より安全・安心な日常生活が確保できる体制を充実させ、安全に快適に暮らせるまちづくりをめざします。

基本目標

- 5 安全・安心なまちづくり
- 6 快適な暮らしづくり
- 7 自然と共生するまちづくり

政策④ みんなで創るまちづくり

より多くの市民の方にまちづくりに対して関心を持っていただくために、情報の共有化を図るとともに、市と連携して公共サービスを担う組織の支援を行います。

基本目標

- 8 市民参画・協働のまちづくり

未来へ輝く希望と信頼のまちこまつしま

政策① ひとりひとりが輝けるまちづくり

【基本目標】 1
子育てしやすい
まちづくり

基本施策 1-1 児童福祉・子育て支援の充実

【基本目標】 2
心豊かなひとづくり

基本施策 2-1 学校教育の充実

基本施策 2-2 社会教育の推進

基本施策 2-3 人権教育・啓発の推進

基本施策 2-4 スポーツ活動の振興

基本施策 2-5 文化・芸術活動の振興

【基本目標】 3
健やかな
暮らしづくり

基本施策 3-1 地域福祉の充実

基本施策 3-2 高齢者福祉の充実

基本施策 3-3 障がい者福祉の充実

基本施策 3-4 自立支援の推進

基本施策 3-5 社会保障の充実

基本施策 3-6 健康づくりの推進

政策② 未来への活力を育むまちづくり

【基本目標】 4
活気あふれる
まちづくり

基本施策 4-1 農林業の振興

基本施策 4-2 水産業の振興

基本施策 4-3 商工業の振興

基本施策 4-4 観光の振興

基本施策 4-5 移住・定住の促進

政策③ 安全・安心して快適に暮らせるまちづくり

【基本目標】5
安全・安心な
まちづくり

- 基本施策 5-1 防災・減災対策の推進
- 基本施策 5-2 消防・救急体制の充実
- 基本施策 5-3 交通安全対策の推進
- 基本施策 5-4 防犯対策・消費者保護の強化

【基本目標】6
快適な暮らしづくり

- 基本施策 6-1 小松島の魅力を活かした都市計画の推進
- 基本施策 6-2 道路・交通網の整備
- 基本施策 6-3 住宅対策の推進
- 基本施策 6-4 上水道の整備と汚水対策の推進

【基本目標】7
自然と共生する
まちづくり

- 基本施策 7-1 自然環境の保護
- 基本施策 7-2 循環型社会の実現

政策④ みんなで創るまちづくり

【基本目標】8
市民参画・協働の
まちづくり

- 施策 8-1 情報化の推進
- 施策 8-2 効率的な行政運営の推進
- 施策 8-3 市民活動の推進
- 施策 8-4 広報・広聴の充実
- 施策 8-5 男女共同参画社会の実現